

科目名	人間発達学			ナンバリング	ZBA222	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	神子嶋 誠	担当教員					

授業の概要	理学療法の対象は、新生児から高齢者まで全年齢層である。その対象者の身体面・心理面・社会面の発達過程を理解し、各時期における特徴を理解する。特に運動・認知発達の著しい、乳幼児期ではその過程を詳細に学び、さらに障害が発生した場合において、生活環境の支援法に対しても学ぶ。				
到達目標	1. 発達に障害を抱える子どもたちに対し、理学療法士として適切な発達段階の評価ができるために、その基礎となる発達過程に関する知識を獲得する。 2. 障害を有する人々に対し、その人のライフサイクル(生きてきた過程＝人生、生涯)を考慮した理学療法サービスの提供を心がけられるために、発達過程という視点を通して、人のライフサイクルについて考えられるようになる。				
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	用語、概念、発達課題の獲得時期などを単に記憶するという作業にとどまらず、出来る限り具体的な事例を関連付けて学習すると理解射やすくなる。両親から自分の子供の頃のエピソードを伺ってみる、子どもが主人公になっている小説や映画の内容と発達学的な知識を関連付けてみるなどが学習の手助けになる。				
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】				
	○	1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。		
		2	地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。		
		3	健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。		
	○	4	健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。		

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1) 代表的な発達理論について概要を説明できる。 2) 原始反射、立ち直り反応、平衡反応について名称、概要、統合(または獲得)時期を説明できる。 3) 新生児期から幼児期までの姿勢・運動の発達過程を説明できる。 4) 乳幼児期の心理的発達の過程を説明できる。 5) 児童期の心身の発達の過程を説明できる。 6) 思春期および青年期の心身の発達の過程を説明できる。	1) 心身の発達過程を学習することが、理学療法臨床においてどのような意義があるのかを説明できる。 2) 代表的な運動制御理論の概要を説明し、これらの理論と姿勢・運動発達の関連性を説明できる。 3) 原始反射、立ち直り反応、平衡反応の消長、または獲得と乳児期の運動発達を関連付けて考察できる。 4) 人の発達学的事象を多角的に考察することができる(例、乳児期の愛着の形成と運動能力の発達の関連性を考察するなど)

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)	○	○				○	80%
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		10%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○	○	○	10%

課題、評価のフィードバック	レポートに対する個別のコメント(必要に応じて)、授業時の全体へのフィードバックで行う。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	総論・発達学の諸理論	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 基本的用語の理解 ライフサイクルと発達 発達額の諸理論(ゲゼル、フロイド、エリクソン、ピアジェなど)	
	第2回	胎児期・新生児期の発達1	胎下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 児期の成長と発達の過程 出生(分娩)の過程とリスク因子 Alsの共生理論の概要	
	第3回	胎児期・新生児期の発達2	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 新生児期の心身機能・構造の特徴 ストレスに対する適応行動の発	
	第4回	乳児期～幼児期前半の発達1	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 乳児期の身体の成長と発達 認知機能の発達(感覚、知覚、探索行動など)	
	第5回	乳児期～幼児期前半の発達2	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 乳児期の情緒と対人関係能力の発達 基本的愛着関係(母子相互作用)の形成過程	
	第6回	幼児期後半の発達1	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 身体の成長と発達 幼児期の認知機能の特徴と発達 言語能力の発達	
	第7回	幼児期後半の発達2	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 幼児期の情緒、社会性の発達 幼児に対する安全管理と安全教育 基本的週間(日常生活活動能力)の発達	
	第8回	学童期の発達1	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 身体の成長と発達 体育(スポーツ)指導における適時性 認知機能の発達(学習能力の発達)	
	第9回	学童期の発達2	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 社会性と道徳観の発達 学校生活における発達に関連する諸問題(不適応行動、発達障害など)	
	第10回	青年期の発達	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 身体の成長と発達 認知の発達 社会性の発達	
	第11回	姿勢反射と乳児期の運動発達1	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 運動発達の理論的背景(神経成熟論と動的システム理論) 原始反射・姿勢反射	
	第12回	姿勢反射と乳児の運動発達	姿勢制御機構(立ち直り反応、平衡反応)の発達と運動機能について解説する。	
	第13回	粗大運動発達1	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 新生児期の自発運動の発達 乳児期前半の粗大運動能力の発達過程	
	第14回	粗大運動発達2	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 乳児期後半の粗大運動能力の発達過程 幼児期の運動能力の獲得過程 幼児期～学童期の歩行機能および歩容の変化	
	第15回	微細運動発達	下記の内容について具体的な事例を示しながら解説する。 乳児期から幼児期の手の運動能力の発達過程 微細運動発達と認知は発達の関連性	
	試験	筆記試験(多肢選択問題80%、記述問題20%)		
授業の進め方		学生が予め指定された予習課題を行って居ることを前提に授業を進めます。授業では予習で難しかったこと、理解できなかったことにたいする解説、学習内容を具体的な事例を通して確認すること、担当教員の臨床経験に基づくトピックスを中心に進める。		
授業外学習の指示		毎回、概ね授業の1週間前に予習のための課題および授業内容の要点をまとめた資料(「学習の手引」)を配布するので授業なでに各自で予習を行ってくこと。 (授業外学習時間: 毎週 240 分)		

教科書	大城昌平 編、リハビリテーションのための人間発達学 第2版、メディカルプレス、3,600円＋税、ISBN978-4-944026-95-1
参考書	上田礼子 著、生涯人間発達学、三輪書店、4,104 円(税込) 、ISBN978-4-89590-399-8 上杉雅之 (監修)、イラストで分かる人間発達学、医歯薬出版、4,200円＋税、ISBN978-4-263-21945-4
参考URLなど	なし
その他	なし